

# 古碁名局鑑賞室

本因坊丈和編

-江戸時代300年最後の名人碁所-



講師 栄区囲碁普及会 臼井道雄五段

## 歴代本因坊

- |        |              |
|--------|--------------|
| 1. 算砂  | 14. 秀和       |
| 2. 算悦  | 跡目秀策         |
| 3. 道悦  | 15. 秀悦       |
| 4. 道策  | 16. 秀元       |
| 跡目道的   | 17. 秀栄       |
| 跡目策元   | 18. 秀甫       |
| 5. 道知  | 19. 秀栄 (再襲)  |
| 6. 知伯  | 20. 秀甫 (再襲)  |
| 7. 秀泊  | 21. 秀哉       |
| 8. 伯元  | タイトル制の5連覇による |
| 9. 祭元  | 『名誉本因坊』      |
| 10. 烈元 | 22. 秀格(高川)   |
| 11. 元丈 | 23. 栄寿(坂田)   |
| 跡目知策   | 24. 秀芳(石田)   |
| 12. 丈和 | 25. 治勳 (趙)   |
| 13. 丈策 |              |

# 碁界黄金の十九世紀

○芸道の復興: 安井仙角・知得、本因坊元丈

○碁所を目指して: 本因坊丈和・道策、幻庵因碩

○百花開く: 本因坊秀和・秀策・秀甫・秀栄

# 四家家元

慶長17年(1612)、家康は碁打衆将棋衆に扶持を給した。うち、算砂は本因坊家、道碩は井上家の祖、六蔵はのちの一世安井算哲。別に門入斎が林家を興す。当初は個人に与えられる扶持で、家禄として相続されるのは算悦が二世本因坊を継いでのちの制度だ。幕府の諸法度も数回改定され、四家に落ち着くのは四世本因坊道策時代、17世紀末、貞亨のころだった。

本因坊家と井上家は日蓮宗清僧の家柄で養子相続。安井家と林家も高手は続かず多くは養子相続だ。

幕府が崩壊するまで、本因坊家は二十一世、安井家は十世、井上家は十三世、林家は十三世が続いた。

# 御城碁

江戸城内、将軍家御前対局をいう。次第に礼式化し、寺社奉行の管轄下で厳密におこなわれるようになった。碁打衆雄一の晴舞台で、あらかじめ下打ちした碁を中奥黒書院で披露する。将軍出座の場合は終局まで。不出座の場合はヨセだけを残し、老中の列席を待って終局したという。

期日は吉宗執政の享保元年(1716)から大阪冬の陣の吉例をもって11月17日に定められた。

出場できるのは各家元とその跡目相続人だが、外家でも五段で出場した例が二、三ある。のちには上手七段に達したときは出場権が与えられた。出仕者は剃髪し、十人扶持(18石)が給せられた。微禄であっても、国家公認プロとしての待遇を受けている。

# 名人碁所

日海は信長から名人と呼ばれて、その名を本因坊とした。秀吉はすべての上手衆に白で打つ資格を与え、名人が最高の技量を意味するようになった。

日海は家康に従って東下するとき、寂光寺住職を法弟日栄に譲って本因坊を姓とし算砂を名乗った。上手とは、通常達しうる限界の技量を意味し、

道策時代に段位が併用されて七段を指すようになった。

最初の名人は算砂で、碁打衆を統括する職務と権限を持っていた。算砂の弟子道碩は算砂から印可状を与えられ、名人碁所を引き継ぐ。

しかし、道碩没後はしばらく空位となり、その場合協議によって碁界を運営した。家元の権利の最大は免状の発行だが、碁所に正式免状の認可を得なければならない。御城碁の組み合わせも碁所按配による。その碁所をめぐって各家元は懸命に競合した。ただし、

19世紀に入ってから、名手輩出にもかかわらず十二世本因坊丈和一人だけだった。

# 徳川300年に名人碁所となった人物(棋士)

- ・ 本因坊算砂                    1603年～1623年            21年間            家康, 秀忠
- ・ 井上1世中村道碩            1623年～1630年            8年間            家光
- ・ 安井2世算知                1668年～1675年            8年間            家綱
- ・ 本因坊4世道策               1677年～1702年            26年間           家綱
- ・ 井上4世道節因碩            1710年～1719年            10年間           家綱・吉宗
- ・ 本因坊5世道知               1721年～1727年            7年間            吉宗
- ・ 本因坊9世察元               1770年～1788年            19年間           家治・家斉
- ・ 本因坊12世丈和              1831年～1839年            9年間            家斉・家慶

## 徳川将軍一覽



1. 1603～1605 2年2ヶ月 75才 徳川家康

2. 1605～1623 18年3ヶ月 54才 徳川秀忠

3. 1623～1651 27年9ヶ月 48才 徳川家光



4. 1651～1680 28年9ヶ月 40才 徳川家綱

5. 1680～1709 28年5ヶ月 64才 徳川綱吉

6. 1709～1712 3年5ヶ月 51才 徳川家宣



7. 1713～1716 3年1ヶ月 8才 徳川家継

8. 1716～1745 29年1ヶ月 68才 徳川吉宗

9. 1745～1760 14年6ヶ月 51才 徳川家重



10. 1760～1786 26年4ヶ月 50才 徳川家治

11. 1787～1837 50年0ヶ月 69才 徳川家斉

12. 1837～1853 16年2ヶ月 61才 徳川家慶

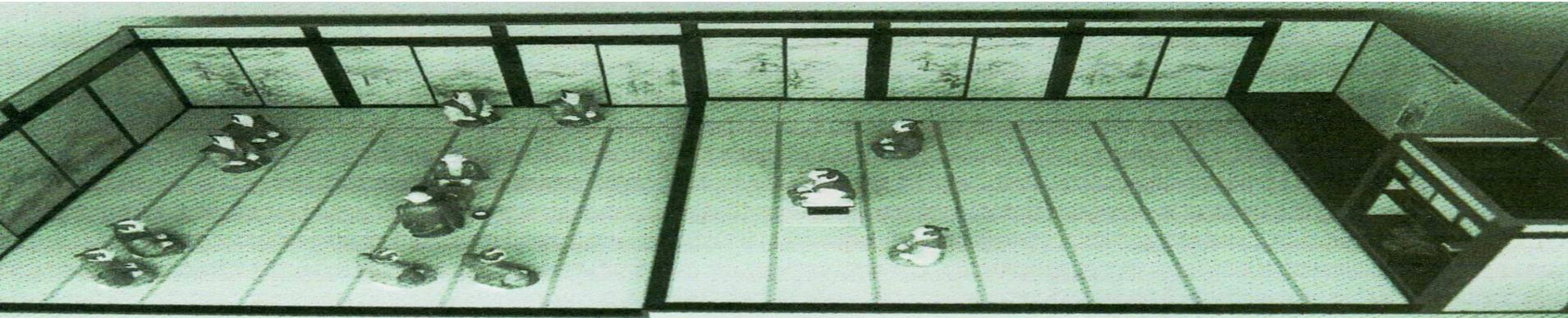


13. 1853～1858 4年8ヶ月 35才 徳川家定

14. 1858～1866 7年9ヶ月 21才 徳川家茂

15. 1867～1868 1年0ヶ月 77才 徳川慶喜

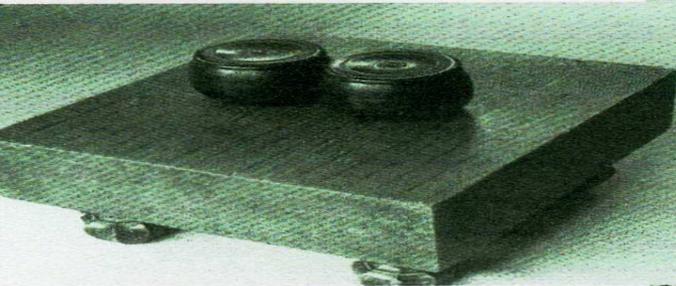
# 御城碁の対局場再現



江戸城黒書院 御城碁の対局場再現



本因坊秀策肖像（尾道市所蔵）



秀策の碁盤（本因坊秀策記念館所蔵）



## 場外乱闘・登場人物と

### この年の段位と年齢

本因坊丈和八段 四十一歳

#### （丈和派）

井上因碩（幻庵）七段 三十歳

#### （因碩派）

安井 仙知八段 五十二歳

#### （中立）

林 元美七段 五十歳

#### （丈和派・坊門の出身）

服部 因淑七段 六十七歳

#### （因碩派・幻庵因碩の養父）

# 主要棋士生没年表(1)

## \*本因坊門

九世本因坊察元	(一七三三～一七八八)
十世本因坊烈元	(一七五〇～一八〇八)
河野元虎	(一七六一～一七九五)
山本源吉	(一七六三～一八二五)
四宮米蔵	(一七六九～一八三五)
十一世本因坊元丈	(一七七五～一八三二)
関山仙太夫	(一七八四～一八五九)
奥貫智策	(一七八六～一八一二)
十二世本因坊丈和	(一七八七～一八四七)
伊藤松和	(一八〇一～一八七八)
十三世本因坊丈策	(一八〇三～一八四七)
十四世本因坊秀和	(一八二〇～一八七三)
岸本左一郎	(一八二二～一八五八)
本因坊跡目秀策	(一八二九～一八六二)
十七、十九世秀栄	(一八五二～一九〇七)
十八世本因坊秀甫	(一八三六～一八八六)
二十一世秀哉	(一八七四～一九四〇)
雁金準一	(一八九七～一九五九)

# 主要棋士生没年表(2)

## \* 林門

九世林門悦 (一七五六～一八一六)

十世林鉄元門入 (一七八六～一八一九)

十一世林元美 (一七七八～一八六一)

十二世林柏栄門入 (一八〇五～一八六四)

林跡目有美 (一八三二～一八六二)

## \* 井上門

七世因達因碩 (一七四七～一八〇五)

服部因淑 (一七六一～一八四二)

八世春策因碩 (一七七四～一八一〇)

九世因砂因碩 (一七八五～一八二九)

十、十一世幻庵 (一七九八～一八五九)

服部雄節 (一八〇二～一八四二)

中川順節 (一八〇四～一八六五)

赤星因徹 (一八一〇～一八三五)

服部正徹 (一八一九～一八六〇)

十二世節山因碩 (一八二〇～一八五六)

十三世松本因碩 (一八三一～一八九二)

# 松平家碁会一天保6年7月19日

		節					
	打掛	三目勝	中押勝	二目勝	三目勝	中押勝	
先		先番		先	先	先	
	七世隱居	六段	上手	準名人	準名人	上手	名人
岡田頼母	安井仙角	宮重丈策	林元美	安井仙知	安井俊哲	赤星因徹	本因坊丈和
	坂口虎次郎		林柏栄				
			服部雄				



文政三年(1820)四月十日、十五日、同晦日

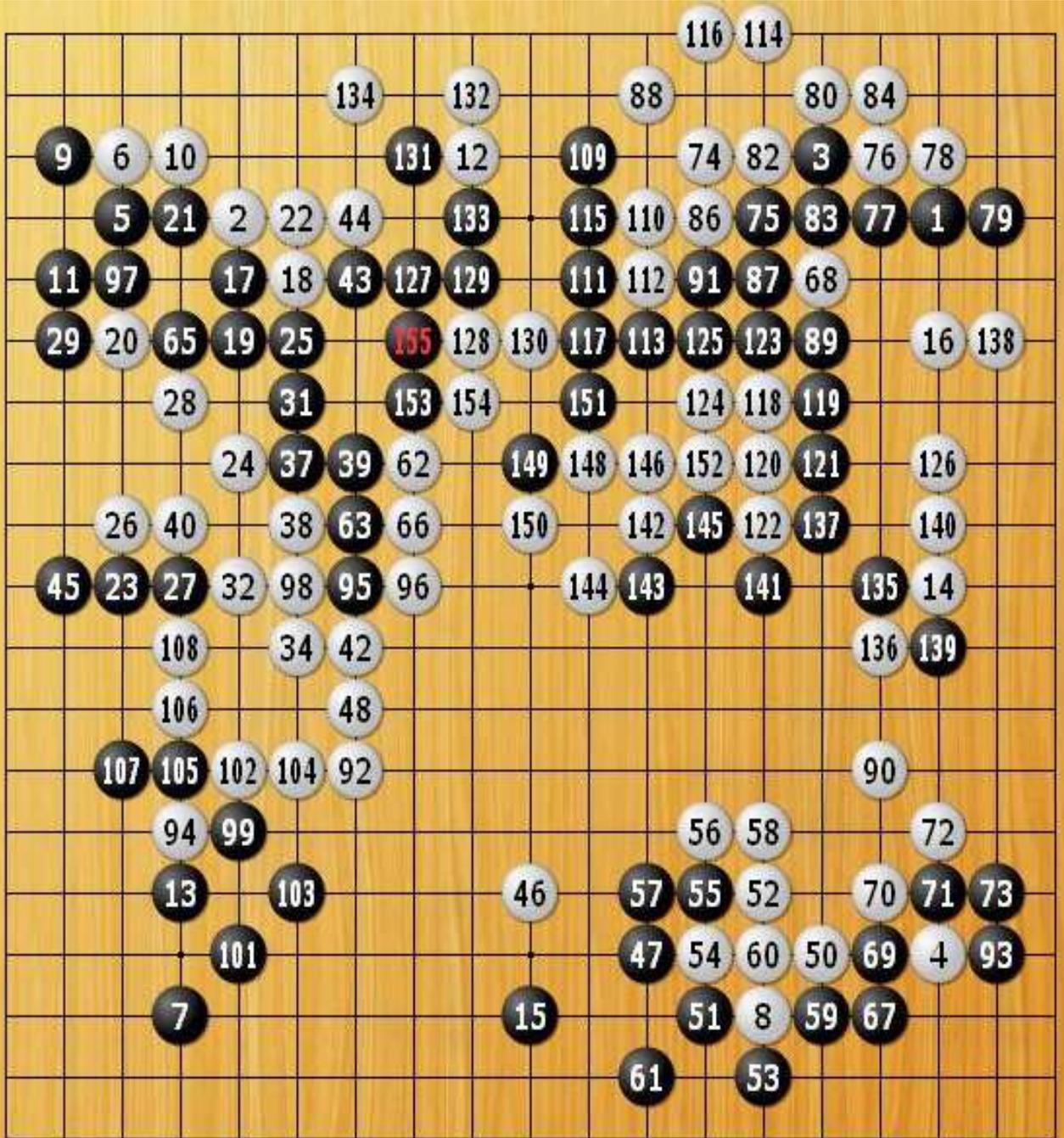
五月十四日、十五日

八世 安井仙知(知得)

先 本因坊 文和

二五九手完黒二目勝

「当世極妙碁」



文政五年(1822)十一月十七日

十世 井上因碩(因砂)

先番 本因坊 丈和

一四七手(補足一五五手)完黒中押勝

於 お城碁

「丈和・横綱相撲」

天保六年七月一九日、二二日、二七日

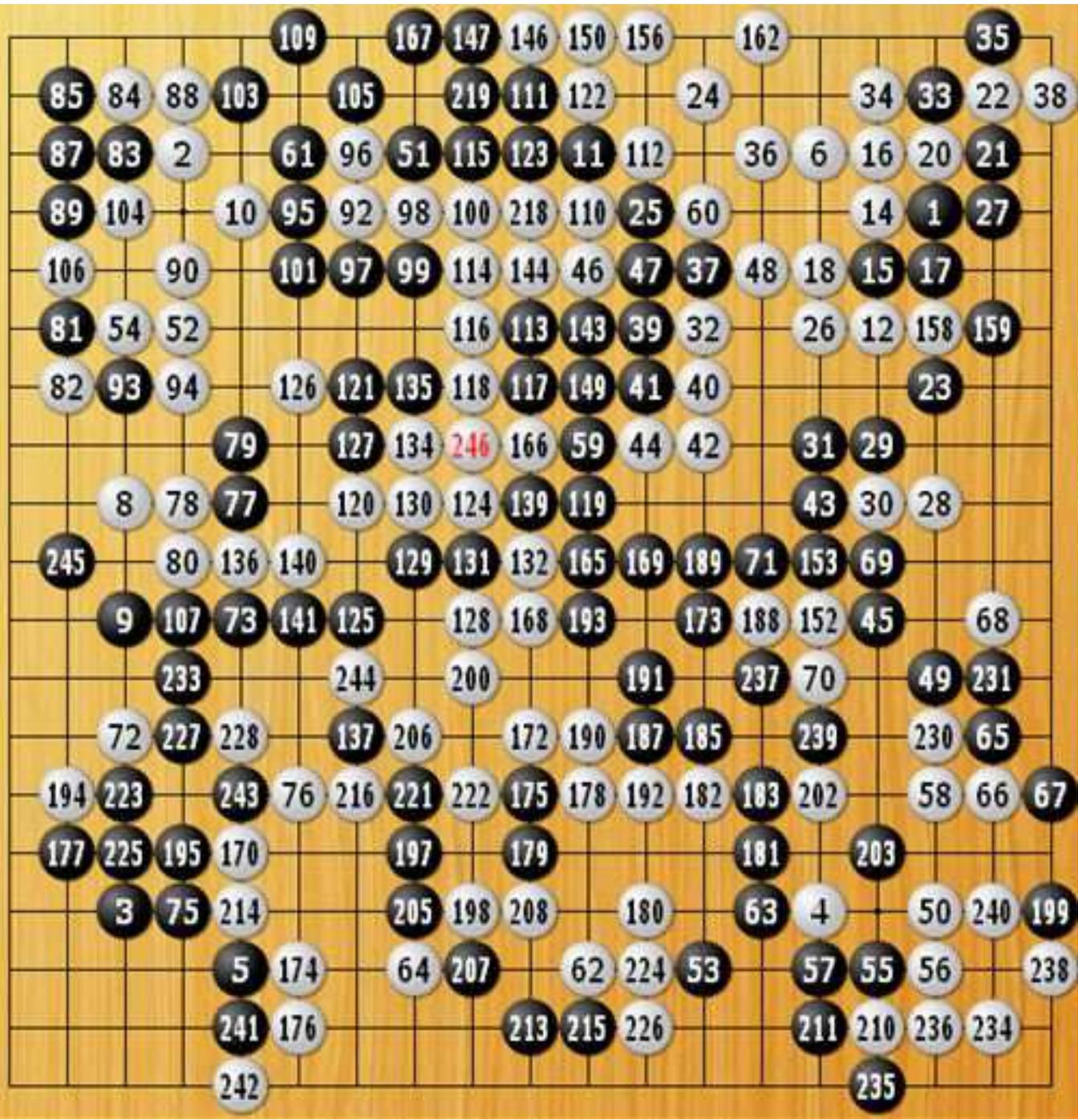
先 赤星 因徹(二六歳)

本因坊文和(四九歳)

於 松平周防守邸

二四六手完白中押勝

「仕血の司」





— 訪ねて名跡の歴史園 —

初代本因坊算砂ゆかりの **京都・寂光寺**



2012は初代本因坊算砂から專業棋士として俸禄を受けてから400年。  
算砂は京都寂光寺の2代目住職;本行院日海上人。かつて寂光寺山  
内にあった塔頭の名称が本因坊のルーツである。



本因坊の茶室



寂光寺の本因坊の塔頭



寂光寺の本因坊の塔頭

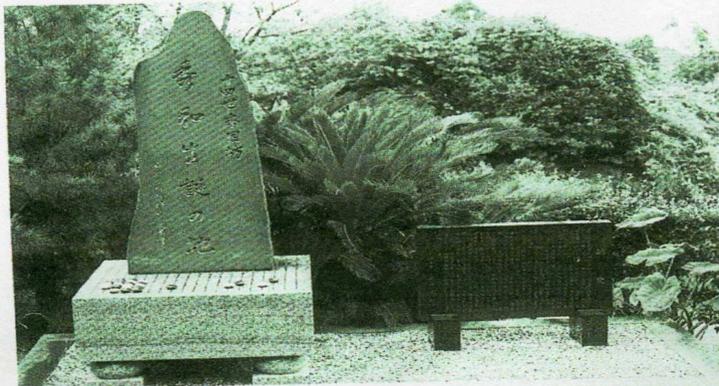
# 本因坊家歴代の墓がある巢鴨本妙寺



本因坊秀用肖像 龍谷寺



本因坊秀栄



本因坊秀和の顕彰碑（静岡県伊豆市）

本因坊家歴代の墓がある巢鴨本妙寺



# 第60回秀哉忌

感じる歴史の重み

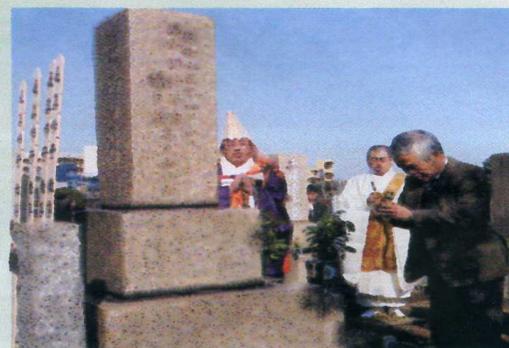


第60回秀哉忌

▲今年の祭主は、羽根直樹本因坊



▲千葉周作らとならび刻まれる「本因坊歴代の墓」の文字



▲工藤紀夫九段も参列



▲本因坊歴代の茶室



▲高倉・山崎に在る本因坊寺



一月一八日は二十一世本因坊秀哉名人の  
命日(1940)。巢鴨本妙寺で執り行われた  
法要には、山下道吾本因坊、大竹英雄理事長  
をはじめ、二十数人の棋士、関係者が出席し

**東京・巢鴨の本妙寺にて**

日本棋院東京本院(東京市ヶ谷)



ご静聴有難うございました  
初段昇級を目指して頑張ってください

